

市橋まち協だより

令和5年3月15日発行
第10号発行
市橋まちづくり協議会

まちづくり協議会の活動は大切なのですか？

市橋地域は岐阜市と合併した昭和25年当時の人口が2,772人の純農村地帯でしたが、今や人口が16,000人を超え、岐阜市で一番人口が多い地域となり、今後も増加が見込まれています。このことは、新しい市橋の住民の増加を意味します。

さて、阪神淡路大震災が起きて28年になりますが、建物等に閉じ込められて救出された約3万5千人のうち約2万7千人（約8割）が近隣住民などの力によるものであったという事実から、災害時での共助の重要性が確認されました。

もし、今、市橋地域に災害が起こった時、市橋地域内での共助が十分になされるでしょうか。

日本の国土の成り立ちから、災害を避けることはできません。災害を最小限に食い止めるためには、地域内の人と人のつながりが求められます。そのつながりをもたらす役割を担い、活動をつくりだすのが、まちづくり協議会なのです。

「市橋まちづくり協議会」の思い

平成19年3月に「岐阜市住民自治基本条例」が制定され、市民がまちづくりの主権者と定められました。

それを受け、平成31年2月16日に「市橋まちづくり協議会」を設立しました。私たちが暮らす市橋地域をこれからどのようにしていくのかは、行政主導ではなく、わたしたちの考え、行動にかかっているのです。わたしたちが力を合わせ、考えを生み出し、行動し、よりよいまちをつくりあげていくのです。

市橋まちづくり協議会のキーワードは、「つながる」・「つくりあげる」の2つとしました。

組織として、3つの部会を設けています。

健康福祉部会・・・健康に暮らせるまちをめざす

防災安全部会・・・安全・安心なまちをめざす

教育文化子育て部会・・・すみよいまちをめざす

事業としては、3部会それぞれが行うものと、3部会合同による全体事業とあり、市橋地域の諸団体と連携を図りながら行っていきます。

令和5年度の活動の振り返り

○成果
●課題

全体事業・・・・・・・・市橋ふれあいフェスタ（健幸ウオーク）



- ・11月20日（日）、市橋小3年生の地域学習としての参加も含め、340名の参加を得、新しくできた県庁に関する問題を中心に、12の問題を解きながらのウオークラリーを行い、地域の魅力を発見できました。

○中学生ボランティアの定着

●大人の参加増

健康福祉部会・・・・・・・・市橋なごやか健康体操

- ・6月17日（金）、12月16日（金）の2回、脳トレ、筋トレを行いました。

○健康体操の定着 ●健康福祉部会の活動内容の工夫

防災安全部会・・・・・・・・大人の交通安全教室

- ・6月19日（日）に老人会の方々を対象に、事故を起こさないために守るべきことを学びました。

○老人を対象とした交通安全教室の実施

●防災安全部会の活動内容の工夫

防災教室

- ・1月21日（土）に岐阜大学の高木朗義教授による防災減災に関する講演会を開催しました。日ごろの災害への備えを実践する重要性を学びました。

○防災への関心の高まり

●防災の取り組みの工夫と実践

教育文化子育て部会・・・・・・・・花いっぱい運動



- ・6月4日（土）、11月12日（土）の2回、市橋地域の公園や自治公民館に、小中学生や老人会、自治会の方々の参加を得、花の苗を植えました。

○花いっぱい運動の定着

●活動の場の広がりと自主的な取組

市橋小・市橋を語ろう会

- ・2月25日（土）、今年、市橋小創立150年を迎えることを記念し、通っていた頃の市橋小学校・市橋の様子を参加者に語っていただきました。

○市橋理解の試みがスタート

●会の継続のための工夫

今後の市橋まちづくり協議会の課題

今年度、ホームページを立ち上げました。ホームページアドレスは次のとおりです。
<https://gifu184.com>是非、ご覧ください。市橋地域の諸団体の活動も紹介しています。

市橋まちづくり協議会の活動に参加する方が一人でも増えることにより、活動の内容が充実し、市橋のまちをよりよくしていくことにつながります。参加をお待ちしています。（事務局長）